

# GRANDCUBE

Osaka International Convention Center

PRESS

Vol.33 2021 Winter



## OICC RESTART!

### SPECIAL MESSAGE

株式会社大阪国際会議場 代表取締役社長 福島伸一

The Document GrandCube

Special Report:

グランキューブ大阪

自衛隊大阪大規模接種センターの191日間

中之島ビジネスフロントライン 大阪中之島美術館

# SPECIAL MESSAGE from CEO ご挨拶

謹啓

いつも大阪府立国際会議場(グランキューブ大阪)をご利用いただきありがとうございます。本年度初めてのGRANDCUBE PRESSを発行するにあたって、一言ご挨拶を申し上げます。

今年も新型コロナウイルス感染症拡大が大きく社会に影響を及ぼしております。国の度重なる緊急事態宣言等を受け、大型集客施設や飲食店の営業が大きく制限されるなど、依然として先行き不透明な状況が継続しております。MICE業界においても、渡航制限により国際会議の開催が不可能となったことや政府による外出やイベント等への自粛要請により、催事の開催



時期や開催規模の見直しが行われ、誘致・営業活動に大きな影響を受けているところです。しかし、10月1日から緊急事態宣言が全国一斉に解除され、withコロナのもと、経済活動も少しづつ再開されつつあります。

このような状況のもと、当会議場は国(防衛省)よりワクチンの大規模接種会場の指定を受け、5月24日より「自衛隊大阪大規模接種センター」として、その運営に全面的に協力してまいりました。当初は、大阪市在住の65歳以上の高齢者に対して1日あたり2,500名の接種。その後、徐々に接種希望者の対象地域・対象年齢の範囲は拡大され、16歳以上の全国民を対象に1日あたり5,000名のワクチン接種が行われることとなりました。こうした取組みの結果、11月には全国民の70%を超える方が2回目の接種を終了されています。公の施設の運営を行う当社として、大阪府民の命を守るお手伝いをさせていただきました、国民へのワクチン接種の加速化という社会的意義の極めて高い事業に貢献出来たことは大きな喜びであり、接種者の皆様にも気持ちよくご利用頂けるよう努めてまいりましたし、大阪府立国際会議場(グランキューブ大阪)を広く知って頂ける機会ともなりました。こうして、5月より自衛隊大阪大規模接種センターとして社会に貢献してまいりましたが、11月末をもってセンター運営が終了。12月から通常の営業を再開致します。

新型コロナウイルス感染症の影響はまだ暫くは継続するものと考えられますが、当社の理念であります「世界の人・モノ・情報が行き交う総合交流施設として、大阪の発展と国際化に貢献する」という初心に帰り、新たに再出発(RESTART)いたしたいと存じます。

再出発(RESTART)にあたって、①新型コロナウイルス感染症防止対策をはじめ皆さんに安心してご利用いただける環境づくり、②時代の要請にこたえる最新の設備・ICTインフラ等の整備、③お客様の満足度100%を目指したサービス・施設の提供等を柱として、業界トップクラスの会議環境をお客様に提供し、当会議場が再び国際会議や様々な催事に広くお使い頂けるよう取り組んでまいります。

2年弱続くコロナ禍にも、ワクチン接種の推進と治療薬の研究開発によって、漸く一筋の光が見えつつあります。当会議場もこうした未来の光をいち早く受け止め、「大阪経済の再起動」の魁となるとともに、大阪の国際化・文化の発展に貢献できますよう、様々な努力を積み重ねてまいりますので、これまでと変わらぬご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

謹白

令和3年12月1日

株式会社大阪国際会議場  
代表取締役社長 福島 伸一



# 2025年、大阪・関西万博開催。 西日本最大のMICE拠点として、 お客様、地域と共に発展を目指す。

対談参加社員  
(写真左から)

サービス事業課:奥野  
営業課:高塚  
予約課:小笠原  
誘致課:池本

突然のコロナ禍に見舞われた2020年春。大阪府立国際会議場で予定されていた会議やイベントの大半は中止を余儀なくされ、続く今年2021年は、自衛隊大規模接種センターとして社会に貢献する一方、お客様にご利用いただけない期間が続きました。その間のお客様への思い、改めて実感したMICE拠点としての重要な役割、そして、2025年開催予定の大阪・関西万博に向け、コロナ後のこれからと未来への展望について営業部社員4人が熱く語ります。

### コロナ禍で迎えた20周年は苦難の年に

一コロナ禍では、どのような思いで仕事に取り組んでいましたか？

**小笠原** 2020年3月以降は、感染拡大の影響で会議や展示会、興行など数多くの催事のキャンセルが相次ぎました。なかでも入学式や卒業式は、学生さんにとっては一生に一度のイベントなので、主催者の方々はかなり悩まれたと思います。その後、当館も休館になり、この寂しい状況がいつまで続くのかなど不安になりました。

**高塚** 感染者が初めて日本で見つかってからは、一斉休校になったり緊急事態宣言が発令されたりと大騒ぎになりましたが、正直なところ、

2020年の6月頃には元に戻るだろうと楽観的だったんです。まさか1年半経った今もコンサートができないとは思いもしませんでした。2020年は、大阪府立国際会議場オープン20周年なので、飛躍の年になるはずでしたし、今年(2021年)も昨年の振替公演の予約が数多く入っていたので残念です。私たちの仕事は、お客様に集まつていただくことで成り立っていますが、世の中はそれとは相反する流れになり、正直、途方に暮れました。

**池本** 私が担当している医学系学会も、コロナ禍で中止になりました。参加者は医療従事者なので、感染が拡大している状況を考えると中止せざるを得なかったと思います。主催者の方々の気持ちが分かる分、私たちも辛い思いをしましたし、先生方と関係を築きながら、学会開催の

準備をしてきた一営業担当としては、何かいい手段はないのかとやきもきし続けた一年でした。奥野 コロナ禍もそうですが、感染が拡大する前年の2019年は、6月に行われた「G20大阪サミット2019」により、急遽お客様に会場をお譲りいただきました。2020年は、新型コロナ感染拡大で休館、さらに2021年は自衛隊大規模接種センターとなり、お客様にはご迷惑をおかけしています。果たしてこの先、皆様に戻ってきていただけるのかと不安を感じています。また、イベントのオンライン化も広がり、我々の生業は成り立つかという不安もありました。でも、コンサートのように、リアルだからこそ効果のあるイベントもありますし、対面でなければ商談が進まないという声もあります。コロナ禍で、“リアル”的ニーズはあると、



再確認することができました。

### お客様のご厚意に感謝し、社会貢献できたことを誇りに

一自衛隊大規模接種センターに選ばれたことについて、どう感じましたか？

**小笠原** 今年5月、大阪府立国際会議場が自衛隊大規模接種センターに決定してからは、その直後に入っていた予約をお断りしなければならず、申し訳ない気持ちになりました。その一方で、ワクチン接種会場になれば多くの人々が接種でき、感染の不安から解放されます。苦しい中でも、地域に貢献できてよかったです。

**高塚** 私が担当しているコンサートは、会場がなければ商売は成り立たないので、主催者やアーティストサイドの方々には、突然の公演中止にチケットの払い戻しや多額の損害、代替会場探しなどの手間が増え、大変なご迷惑をおかけしたことを、肝に銘じなければならないと思いました。その上で、私も、感染拡大の収束に向けて自衛隊大規模接種センターとして使っていただけことは価値があると思います。その価値を生み出せたのは、会場を譲ってくださったお客様のご厚意のおかげと感謝しています。

**池本** 高塚さんと同じく、お客様に会場をお

譲りいただけるようお願いすることはネガティブな要素でした。しかし、社会貢献の一端を担えることはありがたく、その施設の従業員であることを誇りに思いました。マスコミで大々的に報道され、当館の知名度が上がったこともポジティブな要素ではあると思います。

**奥野** 感染拡大を抑制する自衛隊大規模接種センターは、日本に2カ所しかありません。そのうちの1カ所を提供することは、社会貢献のひとつです。商談相手の方々にも会うたびに「ありがとうございます」「お疲れ様です」と、感謝やねぎらいの言葉をたくさんいただいています。常連のお客様には申し訳ないという気持ちはありますが、自衛隊に会場を提供できてよかったです。

### MICE業界を盛り上げるために

一コロナ後のビジョンや目標をお話ください。

**高塚** 私は、高校生の軽音楽部全国大会「スニーカーエイジ」や中高生のダンス部関西大会など、高校生のイベントも担当しています。大阪府立国際会議場が高校生の夢を育むような聖地になればうれしいですし、彼らが大人になって会議やコンサートで再び当館と巡り合っていただけることを願っています。

**小笠原** 每年恒例のイベントに加えて、2022年には大阪中之島美術館が開館し、2025年には大阪・関西万博も行われます。今後は、その関連イベントを当館で開催してもらえるよう、がんばりたいと思います。そのためには、安心・安全面への配慮はもちろん、地域の方々と一緒に楽しめる場所として発展していく考えています。

**池本** 私も、西日本のMICE拠点である大阪府立国際会議場が、単なる貸会議室ではなく、業界のキーファクターになる組織・施設になるよう努めたいと思っています。自衛隊大規模接種センターとして使われた貸会議室は当館だけなので、安心してご利用いただけるのはうちの強みですね。ただ、これまで、当館の事情でご利用をお断りしたお客様に戻っていただくには、今まで通りのことをしていてはいけないと思っています。

**高塚** 例えば展示会やコンサートは今後、オンラインとリアルを合わせたハイブリッド開催の提案がお客様のニーズに合うかもしれませんね。コロナ禍でオンライン展示会やリモートコンサートのプラットフォームができ、2年前には考えられなかったことが一気に加速したので、そうした提案は可能だと思います。



ただし、オンラインのみの展示会はリアルのようにさまざまなブースに立ち寄ることで得られる新たな出会いや発見はなく、リモートコンサートは臨場感がありません。来年以降は、オンラインとリアルの両輪で開催し、参加の仕方も選べるような提案がメインになるのかなと思っています。

**奥野** 今後、大阪府立国際会議場が選ばれる施設になるには、そうした提案やサービスなど、ソフト面を充実させることが大切になってくると思っています。自衛隊大規模接種センターとして稼働していた期間は、ソフト面の向上に努めました。パートナー会社である食堂の運営会社さんも、自衛官の方々の食事を弁当から館内食堂での店内喫食に変え、温かい食事、新鮮なサラダ類を提供してくださいました。防衛大臣から「大阪の自衛官は満足している」とお礼の電話がかかってきたというのは、うれしいエピソードです。これからも、お客様に喜ばれる施設になるためにサービスを充実させるとともに、“Withコロナ”的流れに沿う商品展開やオペレーションを考える必要があります。お客様にご迷惑をおかけした分、より使いやすいMICE拠点になるよう努め、MICE業界を盛り上げていきたいと思います。

(対談日時:2021年10月5日)





Special Report :

# グランキューブ大阪 自衛隊大阪大規模 接種センターの191日間

大阪府立国際会議場は、2021年5月24日から11月30日までの191日間、防衛省が設置した「自衛隊大阪大規模接種センター」として、一日最大5,000名の方々にワクチン接種を施す会場となりました。東京、大阪の2カ所のみに限定し設けられたこの大規模会場の大坂センター長として現場で全体の統括と指揮に当たられた小池啓司一等陸佐・医学博士に、複数の候補から大阪府立国際会議場を選ばれた理由、長期にわたる期間中の取り組みや従事する医官、看護官の方々の思い、そして、会場としての大阪府立国際会議場への評価についてインタビューしました。

(写真：接種会場で指揮に当たる小池啓司センター長)



「ともに安全安心ありがとう」の合言葉を記した缶バッジ

## バリアフリーと広さが選出の決め手に

11月末、5月24日から始まった新型コロナウイルスワクチンの大規模接種が終了しました。当初は3ヶ月の予定でしたが、2回の延長を経て、半年間にわたる任務になりました。

ワクチンの大規模接種センター開設が計画されたのは、4月末のことです。その後、複数の候補会場を大規模接種対策本部長である中山防衛副大臣が下見し、ゴールデンウィーク中には、大阪府立国際会議場での大規模接種

実施が決まりました。

私は仕事柄、研修やセミナーで同会議場を利用していたので、ある程度、会場の様子は知っていました。しかし、運営側の立場で改めて下見すると、制約が少なく使いやすそうだと感じました。

まず、大規模接種センターとして使うにはバリアフリーは重要な条件ですが、この施設にはエレベーター・エスカレーターが完備されており、会場もフラットです。高齢者や身体の不自由な方も利用しやすいと思いました。空間が広いのもいいですね。おかげで、

利用者の動線と効率性に集中してレイアウトできました。

接種業務のスピードは一定ではありません。また、利用者の方々も予約時間ちょうどに来られるわけではないので、接種や問診を待つ人がたまることが予想されました。こうした状況を回避するために待機場所の確保は必須でしたが、スペースがこれだけあるので、悩むことなく準備を進めることができ、ありがとうございました。

## 会場を最大限に活用して三密を回避

大阪大規模接種センターの編成完結から1週間の準備期間を経て始まったワクチン接種では、自衛隊から派遣された医官約30人、看護官・陸曹(准看護師)約70人と、民間の看護師約90人と管理要員約70人で対応しました。

期間中は5階メインホールで受け付けし、接種会場を3階の展示会場と10階の大会議室の2カ所に設け、それぞれ予診から経過観察まで一連の接種業務を行いました。5階の受け付けには120席程度しか用意できないため、早く来られた利用者の待機場所として





経過観察に使用された10階大会議室



6階も活用しました。数百人入っても密を回避できる広さなので、感染対策も万全です。静かなのもいいですね。本当に、1日5,000人の方々が来られているとは感じられないほど、人ととの距離を保てるので安心でした。

会場は、当初の予想通り使いやすく、足が不自由な方や車椅子利用の方々からも「移動しやすい」とご好評をいただきました。また、全館空調が効いているので、夏の間も利用者の皆さんに負担をかけることはなく、我々も快適に任務を遂行することができました。

### 「この1本で1人の命が救える」という気持ちで

毎日5,000人接種を目標にしているので、バイアルからワクチンを注射器に入れる作業も相当量になります。数をこなそうとする事務的に作業をしてしまいがちですが、任務に当たっていた自衛官は「この1本で1人の命が助かるという思いで作業をしている」と話していました。他の自衛官も、同じ気持ちだったと思います。

医官や看護官は普段、国民の皆さんの中に触れない場所で活動しており、最近は南スーダンで活動していました。今回は、大規模かつ、直接国民の方々に、我々の知識と技術を役立てられる貴重な機会でした。皆さんに安心と安全を提供できることに、我々自衛官はやりがいを持って取り組みました。

### 施設の選定がミッションの肝に

今回の活動は大規模であり、民間の看護師、旅行会社との協働であることから、何か目指すものが必要だと思いました。そこで、自衛隊と民間の皆さんと、「ともに安心安全ありがとう」という合言葉を決めて、それを記した缶バッジを作って配りました。この合言葉には、どんな業務にも、感謝で取り組むこと

が大切であるという思いが込められています。

接種期間は半年にわたりましたが、淡々と何事もなく過ぎていったわけではありません。日々、貴重なワクチンを余らせないよう気を配りながら、さまざまな問題、変更などに対応しました。そうした重要な業務に集中できたのは、適切な施設を選定したからこそといえます。

半年間のセンター運営を感じたのは、こうしたミッションの肝になるのは、やはり会場となる施設の選定です。その点では、大阪府立国際会議場での任務はストレスを感じることはありませんでした。視察に来られた方々の評価も高く、利用者にも安心して来ていただくことができ、満足しています。

(インタビュー日時:2021年10月5日)



大阪市内が一望できると来場者に好評だった10階経過観察会場

# EVENT INFORMATION

グランキューブ大阪で今後開催予定のイベントをご紹介します。

イベントカレンダー  
<https://www.gco.co.jp/event/>



※新型コロナウィルス(COVID-19)の影響により、開催中止、または延期となる場合があります。最新の情報は、主催者様へお問合せください。

## COMING-UP [開催予定]



2021. 12/26

### 第1回 全国高校 軽音楽部大会「we are SNEAKER AGES」全国大会

「we are SNEAKER AGES」は、軽音楽系クラブに所属する高校生に発表の機会と、目標となる華やかなステージを経験してもらいたいという想いで1979年に関西でスタート致しました。2015年からは、関東大会がスタートし、以降開催地域を拡大、そして本年度よりついに、初の全国大会として実施。全国の軽音楽部員の目標となる大会へと生まれ変わりました。

各地区の代表、計15校が集まり、個性溢れる、思いの込もった演奏を繰り広げます。

また、この第1回大会に、ポーカルグループ「GReeeN」によるテーマソングの書下ろしも決定、大会に向け、仲間と全力で取り組む全国の軽音楽部員への“エール”を送っていただきます。

本楽曲は、大会グランドフィナーレでの使用を予定。

大会の模様は、ライブ配信アプリ「LIVE DREAMER」にて配信を予定しております。

(一般観覧案内は未定、詳細は主催者へお問合せください) [スニーカーエイジ 実行委員会 加賀田 幸江]



2022. 2/4

ー あなたに伝えたい歌。君に届けたい詞(ことば)。ー

### ZARD “What a beautiful memory” ~軌跡~

ZARD 30周年Yearを締めくくる豪華記念ライブ 2022年2月開催決定!

坂井泉水の歌声と映像、バンドによる生演奏がシンクロし特別な空間を生み出す奇跡のライブが6年ぶりに有観客ライブとして戻ってきます。アニバーサリーヤーの集大成にふさわしい、ZARDゆかりのアーティスト達がゲストとして登場!

#### ◆ バンドメンバー

Guitar 大賀好修(Sensation)

Guitar 森丘直樹(WWEEZZ)

Acoustic Guitar & Chorus 大田紳一郎(doa)

Bass 麻井寛史(Sensation)

Keyboards 大楠雄蔵(Sensation)

Keyboards & Chorus 北川加奈

Drums 車谷啓介(Sensation)

Saxophone 鈴木央紹

Manipulator 大藪拓

Chorus 神野友亜(SARD UNDERGROUND)

Chorus 一条紀希(BARNZ)



#### ◆ ゲストアーティスト(五十音順)

浅岡雄也(FIELD OF VIEW)

池森秀一(DEEN)

大黒摩季

大野愛果

川島だりあ

徳永暁人(doa)

葉山たけし ※敬称略

[会場] 大阪国際会議場(グランキューブ大阪)  
[開場/開演] 17:30/18:30  
[問合せ] キョードーインフォメーション  
TEL. 0570-200-888

## FINISHED [会期終了]

2021. 4/8-11

### 第125回日本眼科学会総会

コロナ禍の中、最新の研究・臨床の情報を発信

国内最古の臨床医学会である日本眼科学会を2020年からのコロナ禍の中、約8400人の参加を得、感染対策を万全にした会場とライブ中継、オンデマンド配信で構成したハイブリッド形式で開催しました。

会のテーマは「知と実践」としました。急速に進歩する眼科学の最先端の基礎研究から実地臨床に即した臨床研究までの「知」をバランスよく包括した日眼総会で得た知識を、臨床で即「実践」できる内容を盛り込みました。AIや再生医療のシンポジウムをはじめ、検査・治療の低侵襲化と題した評議員指名講演など盛況の会となりました。



(第125回日本眼科学会総会 総会長  
関西医科大学医学部 眼科学教室 主任教授 高橋 寛二)

9/1[水]

## 「災害時におけるヘリポート施設使用等に関する協定書」の締結

9月1日の「防災の日」、株式会社大阪国際会議場と天満警察署は、地域の安全に資することを目的として、当会議場のヘリポートの開放等、要請に応じて協力する旨の協定書を締結しました。

当社では、当館にご来場頂きます皆さんにとって安全・安心な施設として、また地域の皆様にもお役に立てる施設として、施設のハード面はもとよりソフト面につきましても、さらなる向上のための取り組みを引き続き進めてまいります。



9月中旬

## 中之島通東側地上階段、及び地下1階ラウンジ前階段に、手すりを設置

これまで手すりのなかった中之島通東側地上階段、及び地下1階ラウンジに通じる幅の広い階段に手すりを設置しました。これにより、転倒事故の危険を未然に防ぎ、ご来場者に対するハード面での安全・安心の向上を図りました。



9月下旬

## 中之島通正面入口横、会議場名称看板前に花壇3基を設置

当館北側の中之島通に面する正面入口にある当館会議場名称看板前に、レンガ模様のサイディングを施した花壇3基を設置しました。これまで、当館への来場記念に、この名称看板を撮影してSNSにアップされる方が少なくありませんでしたが、季節の草花が咲く花壇を設置したこと、無機質な印象だった看板にも自然の安らぎと華やかさが加わりました。



10月上旬

## SDGsの一環として、館内2カ所設置のデジタルサイネージにより、「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」推進の動画放映を開始

大阪府、大阪市では、2019年に開催されたG20大阪サミット、及び2025年開催予定の大・関西万博の開催地として、SDGs(持続可能な開発目標)先進都市をめざすことを目的として、2019年1月、G20大阪サミットにおいて共同で「おおさかプラスチックごみゼロ宣言」を採択。プラスチックの資源循環を促進し、プラスチックごみによる河川、海洋の汚染を防止する「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」を推進しています。

大阪府立国際会議場もこの宣言に賛同し、またSDGs推進の一環として、1Fエントランス正面、及び9F株式会社大阪国際会議場オフィス入口に設置した2基のデジタルサイネージにより、「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」推進の動画放映を開始しました。

当社では、今後もこうしたSDGs関連の取り組みへの参加により、サステナブルな社会の実現に貢献してまいります。



# NAKANOSHIMA BUSINESS FRONTLINE



## 新しい「大阪の視点」を発信していく。 大阪中之島美術館の開館と連携が、 新しい中之島の賑わいを生みだす。

中之島の著名企業・施設を大阪国際会議場社員が訪問し、その歴史や活動を紹介する「NAKANOSHIMA BUSINESS FRONTLINE」。2022年2月2日(水)、構想から実に約40年の年月を経て、新しい芸術の拠点として「大阪中之島美術館」が開館します。第5回となる今回は、長年その準備に尽力されてきた菅谷富夫館長に、営業部営業課長の内田和宏がお話を伺いました。

### 1983年に構想スタート

そろそろ…ということになり検討を重ね、およそ5年前に建設に着手しました。

**内田** 菅谷館長は、長きにわたり開館の準備に関わられたと伺いました。

**菅谷** 私は1992年に準備室にきましたので、およそ30年携わっていますね。その間、時代と共に社会や市民の要求や、美術館への期待、美術館のあり方も変化しました。私たちも、時代の要請に合わせて基本計画を何度も見直し、現代の人たちの期待に応えられるような美術館を、と準備を進めてきました。たとえば、外部の団体や専門家たちと連携する、ということ。企業であったり、NPOであったり、大学の研究室であったり、今の時代にふさわしい新しい感覚を持っている人たちがたくさんいるわけです。その時々の最善な専門家たちと連携して進めたいと思っています。

**内田** 日本の美術館として初めてPFI法も導入されましたね。

**菅谷** 当館のPFIは「コンセッション方式」で、当館を運営するためにつくられた株式会社大阪中之島ミュージアムに運営権を移しています。自由度の高いPFIとして、柔軟な活動をしていきたいと思っています。

### 中之島の魅力向上へ

**内田** 私たち大阪国際会議場は「クリエイティブアイランド中之島」の一員として、各美術館やフェスティ



バルホール様との連携がどれだけできるか考えているところです。大阪中之島美術館様とも、今後、いろいろな連携ができたらいいなと思っています。2025年には「大阪・関西万博」も開催されます。大阪国際会議場は国際会議や関連する会議の場になります。大阪中之島美術館様にはユニークペニーとして、また、海外からのお客様に楽しんでいただく場として誘導するなど、そういうことを通じて中之島全体の魅力が向上していけばいいなと思っています。

**菅谷** 当館も回遊性を重視し、南や東西ヘッキを伸ばしているところです。私たちが地域にどのような貢献ができるのか、美術館ができることで地域がどう変わっていくのか、美術館にとってそういうことも重要だと思っています。ホールなどでユニークペニーもご利用いただけますし、パーティなどに使ってもらいたいですね。

**内田** パッサージュなどは立食パーティによさそうですね。2階までガラス張りで、その上に黒いボックスが載っているようなデザインが斬新ですし、実際に拝見すると縁もあり調和が取れていて素晴らしいですね。



大阪中之島美術館 菅谷富夫館長

らしいです。

**菅谷** ありがとうございます。2階には芝生があつて川も見えます。夏に使ってもらったら気持ちがいいでしょうね。1階の300名が収容できるホールは壁を外せばパッサージュと行き来でき、かなり広い空間になります。会議の後に、ちょっと時間ができたら美術館行こうという方もいらっしゃるでしょうし、さまざまな連携が考えられると思います。

**内田** ゼひ、よろしくお願ひします。ところで、大阪中之島美術館は、どのようなビジョンをお持ちなのでしょうか。

**菅谷** 新しい活動のあり方としては、先ほどお話しした「連携」があります。もう一つは、新しい施設をつくる、ということです。新しい機能として美術館の資料を広く公開するアーカイブを作りました。アーカイブは欧米では主流ですが、日本の美術館で作っているところはまだまだ少ない。私は、資料は公開してこそ意味があると考えています。この施設を国内で広めていくことも自分たちの活動と考えており、たとえば、システムはアメリカの博物館や美術館が使っているオープンソースのシステムを利用しています。みんなで共有することによって、もっといいものにしていく。そして、自分たちの最良のものを提供していくたいと思っています。



「中之島総合文化センター構想」  
[図版提供:橋爪紳也コレクション]

## 新しい「大阪の視点」を発信

**菅谷** ビジョンとしてはもう一つ、新しい大阪の視点を提示していく、ということがあります。当館は、19世紀後半から現代までの美術とデザインを専門としており、大阪出身で戦後の「具体美術協会」のリーダーだった吉原治良(よしはらじろう)の作品を約800点ほど所有しています。当時、彼らの作品は東京の美術界では評判が良くなかった。なぜかというと、東京美術学校や東京芸大中心により150年かかる構築された日本美術の見方や体系があり、それに収まらないものは都合が悪いから評価されないんですね。さらに遡れば江戸時代の文人画などは大阪を中心のひとつとなっていた美術ですが、明治に入り「これは素人の絵だ」などと言われ衰退していきました。けれども、大正時代まで大阪には文人と称する人がいたのです。今では当たり前と思われている価値体系ではない体系で美術をやっている人が、大阪には存在していたのです。ですから私たちは、大阪の作家達の作品だけではなく、物の見方として「違うあり方」があることを発信したい。今まで当たり前と思っていたことが、当たり前ではないことを提示したいと思っています。

**内田** 大阪にはユニークな作家たちが多くいたのですね。その視点や考え方方が知れるというのは、とても興味深いです。

**菅谷** 「違うあり方」を発信する、という意味では、アジアの美術も射程に入ってきます。1990年代にはあまり見えてなかったのですが、2000年代に

なって中国の美術が出てきて、今では高額になっています。シンガポールやタイなど、東南アジアの作家たちもどんどん出てきており、近年、収集に着手したところです。さらに、女性作家たちは何をやっていたのか、という視点もありますね。今までの見方を越えるために、大阪的な見方を提示するということは私たちの重要な仕事だと思っています。単に「小さな東京」ではなく、違う価値観が大阪にあったということ、美術学校にとらわれない作家達の塊を提示することで、もっと視点が自由になって、広がっていくような気がしています。

**内田** 最後に、館長から見られて中之島はどのような魅力があると思われますか。

**菅谷** ここへ引っ越してきて驚いたのですが、結構人が歩いているんですね(笑)。オフィス街というシーンとしているイメージがありましたが、中之島は人の感じがあり、あたたかみや賑わいがあります。30年前、東京から大阪市役所にきたときは、空が広いなあとと思いましたけど、どんどんビルが建設され空が狭くなってきた。その分、人のぬくもりというか、気配や、息づかい、活気のようなものが感じられるようになりました。大阪中之島美術館が開館して、さらに賑わいが生まれることを願っています。

**内田** 弊社も大阪中之島美術館様との連携により、中之島の賑わいに貢献していきたいと考えています。今日は有意義なお話をありがとうございました。

(インタビュー日時:2021年10月13日)



株式会社大阪国際会議場

# 中之島 「総合文化センター」

NAKANOSHIMA TRIVIA

第8回



橋爪紳也 Shinya Hashizume

大阪府立大学研究推進機構特別教授  
大阪府立大学観光産業戦略研究所長

一方、中央市民ホールの想定地には、関西電力の寄付を受けた大阪市立科学生館が建設される。さらに2004年には国立国際美術館の移転開館があつた。また大阪国際貿易センターの跡地は、大阪府の尽力で大阪国際会議場を建設、1999年に開場している。

半世紀前の総合文化センター構想は未完に終わったが、中之島を文化発信の拠点とするという発想は、時空を超えて継承された。私は、この間にさまざまなアイデアが立案され、検討され、そして消えていった点に注目したい。その経緯もまた、私たちの都市の歴史として共有されるべきものであるからだ。

絵画では、図にあるように軸となる大規模な公園「思索の森」「集いの広場」「憩いの広場」を東西に長く設けて、周囲に中央市民ホール、近代科学技術館、民族芸能博物館、郷土資料館、市民劇場、野外音楽堂などを配置するとしたいた。

構想は、その後、何度も修正がなされる。市民劇場は、舞台芸術センターと名称も変更され、具体化に向けて検討がすすめられたが実現には至らない。1980年代からは、近代美術館の構想がここに加えられる。

地区再開発新大阪駅周辺土地区画整理事業など実現したものが多い。たゞ立案のままに終わつたものも含まれる。そのひとつが、中之島の大坂大学理學部や医学部の跡地に文化施設を集めて、「総合文化センター」とする構想である。

# PLAYBACK GRANDCUBE VOL.5 2020/2021 Special

リニューアル創刊号の2019年春号(第26号)から同年冬号(第29号)までの4回に渡り掲載した巻末連載記事「PLAYBACK GRANDCUBE」。今回、復刊を記念し、2020/2021 Special 版として、突然のコロナ禍に見舞われた昨年～今年のこの特別な2年間の活動を振り返ります。人が集まる全てのイベントが止まったかに見えた中で、私たちは大阪府立国際会議場として出来うる限りの努力を払ってまいりました。その一端をお伝えし、そして来年、再び“アジア有数の都市型MICE施設”として、ここ中之島から学術、産業、文化、芸術分野の多種多様な情報を広く世界へ向け発信してまいります。

2020年8月10日(日・祝)

## 「Africa 子どもサミット 2020」開催



アフリカと日本の子ども達がインターネットを通じて繋がるイベントが開催。新型コロナの影響もあり無観客 YouTube LIVE配信での実施でした。会

場に集まつた子ども達だけでなく、大阪府下アフリカの姉妹都市である泉佐野市(ウガンダ)和泉市(セネガル)とSDGsを重視したカリキュラムを採用している大手門学院小学校3校所のKIDSも中継リモート参加。一部は「アフリカをもっと知ろう!」と題したクイズ。二部は「現在のアフリカコロナ事情」。外務省から「アフリカの子どもレポート」と「大阪万博2025」開催概要の説明を交えながら、いよいよアフリカ3カ国(コンゴ民主共和国、ウガンダ共和国、ガーナ共和国)の子ども達が、ネットで現地から登場です! フィナーレは、今回のイベント・メッセージ曲「手を洗おう」を全員で踊りました。

(主催:Africa 4.0 Foundation 共催:株式会社大阪国際会議場/AFEC/Africa meets KANSAI)

2020年11月20日(金)

## 「2025 大阪・関西万博に向けた未来社会デザインシンポジウム」開催

※ハイブリッド開催(リアル参加150人、web参加1,000人)

前年に引き続き、2025大阪・関西万博に向けた未来社会デザインシンポジウムが12階特別会議場で開催されました。吉村洋文大阪府知事、松井一郎大阪市市長参加の下で行われたシンポジウムでは、SDGsの達成とSociety5.0の実現に向けた活発な論議が交わされ、未来社会のために共創して万博を成功に導くための様々な取り組みについてのディスカッションが行われました。

(主催:日本抗加齢協会 共催:大阪商工会議所/株式会社大阪国際会議場/日本抗加齢医学会)



### 【主な催事】

2020 8/10	Africa 子どもサミット 2020
2020 9/11-13	2021年入試 大阪私立学校展
2020 11/7-8	第34回 日本耳鼻咽喉科学会秋季大会
2020 11/20	よしもとプレミアムチャリティーライブ in グランキューブ大阪
2021 1/9	大阪大学シンポジウム「コロナ新時代 安全、安心、いのち輝く社会に」
2021 4/21-25	第75回日本書芸院展・記念講演会

### 【主なコンサート】

2020 8/28	クリス・ハートコンサート
2020 12/19-20	BUCK-TICK TOUR2020
2021 1/9-10	ペリーグッドマン コンサート
2021 2/24-25	郷ひろみコンサート
2021 4/19	BALLISTIK BOYZ コンサート

### 〈電車〉

- 京阪中之島線「中之島(大阪国際会議場)駅」(2番出口)すぐ
- JR大阪環状線「福島駅」から徒歩約10分
- JR東西線「新福島駅」(2・3番出口)から徒歩約10分
- 阪神本線「福島駅」(3番出口)から徒歩約10分
- 大阪メトロ「阿波座駅」(中央線1号出口・千日前線9号出口)から徒歩約15分

### 〈バス〉

- JR「大阪駅」駅前バスターミナルから、大阪シティバス(53系統 船津橋行)  
または(55系統 鶴町四丁目行)で約15分、「堂島大橋」バス停下車すぐ
- シャトルバスが、「リーガロイヤルホテル」とJR「大阪駅」桜橋口の間で運行しており、ご利用いただけます(定員28名)
- 中之島ループバス「ふらら」で地下鉄・京阪「淀屋橋駅」(4番出口・住友ビル前)から約15分

## 株式会社 大阪国際会議場

OSAKA INTERNATIONAL CONVENTION CENTER CORP.

〒530-0005 大阪市北区中之島5丁目3番51号  
Tel.06(4803)5555(代表) Fax.06(4803)5620



GRANDCUBE PRESSは、地球にやさしい広報誌。  
この印刷物は環境に配慮した植物油インクを使用しています。